

第2章 食品製造業の生産動向

利用者のために

食品製造業 総合

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉・同加工品
- 5 食用油・同加工品
- 6 砂糖
- 7 調味料
- 8 飲料
- 9 菓子
- 10 調理食品
- 11 酒類

利用者のために

1 食品製造業の生産、出荷、在庫調査の対象

(1) 調査の対象

食品製造業の生産、出荷、在庫調査は、標本調査及び既存統計資料の収集から構成されている。標本調査は、食品需給研究センターがアンケート等の調査により実施したものである。既存統計資料は、農林水産省や関係団体等で実施された調査統計資料を収集し、活用したものである。

調査対象部門と品目は下表のとおりである。

	本調査の対象品目 (標本調査)	既存統計資料の収集品目 (農林水産省、業界団体、国税庁等)
1 畜産食料品	はっ酵乳・乳酸菌飲料 (非乳業)	食肉加工品、牛乳・乳製品、 食肉缶・びん詰
2 水産食料品	水産練製品	水産缶・びん詰
3 農産食料品	野菜・果実漬物 乾燥野菜	農産缶・びん詰、トマト加工 品
4 製穀粉・同加工品	製粉・穀粉、パン類、めん 類、マカロニ類	プレミックス、パン粉、小 麦でん粉
5 食用油・同加工品		植物油脂・加工油脂
6 砂糖		精製糖
7 調味料	味噌	しょうゆ等、マヨネーズ、 ドレッシング類
8 飲料	コーヒー、紅茶、緑茶、ウ ーロン茶、麦茶、 その他の茶系飲料	炭酸飲料、果実飲料、トマ ト飲料
9 菓子	ビスケット、米菓	
10 調理食品	加工米飯	調理缶・びん詰、レトルト食 品、包装もち
11 酒類		清酒、合成清酒、みりん、 焼酎、ビール 果実酒、リキュール、雑酒
12 その他の食品		植物油粕

(2) 標本調査の概要

調査対象	調査対象企業数 598 社
調査時期	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
調査方法	郵送・FAX・メール・電話による聞き取り
回答企業数	311 社 (回答率約 52.0%)

2 食品製造業の生産指数、出荷指数、在庫指数の作成基準

(1) 食品製造業生産指数

食品製造業生産指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の食料品製造業の出荷額を基準として作成している。

ウェイトは、各部門別、業種別、品目別のウェイトを算出するが、調査資料のない品目のウェイトは、原則として、調査品目にふくらしを行い、部門及び全体の推計を行う（ふくらしウェイト方式）。

指数算出時点においてデータがすべて揃わない場合は、前年と同水準であるとする仮定のもと、該当する欠損値に前年の数値を用いて指数を算出している。

(2) 食品製造業出荷指数

食品製造業出荷指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

(3) 食品製造業在庫指数

食品製造業在庫指数のウェイトについては、平成 22 年工業統計表の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

3 指数の計算方法

指数の計算方法は、次のとおり。

(1) 指数算式

指数計算は対象品目別に基準数量で比較月の生産量を除し、品目指数を計算し、次にこれらの品目指数を業種別、部門別、さらに総合につき品目ウェイトで加重平均する。

基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておくので、変化するのは月々の生産量のみである（ラスパイレス算式）。この指数算式は次のごとくである。

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{q_{ti}}{q_{0i}} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n w_{0i}} \times 100.0$$

q : 生産量
 w : 生産額ウェイト
 i : 採用品目を示す添字
 0 : 基準時を示す添字
 t : 比較時を示す添字

生産指数の基準年は平成 22 年であり、基準数量は対象品目ごとの 22 年月平均生産数量である。指数値は 22 年月平均の比例数である。出荷指数と在庫指数についても同様の指数算式で行う。

(2) 指数改定

指数は、基準時から遠ざかるに従い新製品の登場、製品の品質変化、相対価格の変化等によって採用品目の代表性、ウェイト構成の妥当性が不安定になる。このため5年毎に基準時を移行し、改めて選定された採用品目と再計算されたウェイトによる改定基準を作成する必要がある。

(3) 用語の解説

① 暫定値：各総合指数を推計する際、現在の使用データが速報値であり、今後確定値に変更されるデータについては、暫定値としている。

② 寄与度：他の内訳が変化しないとした場合に特定の内訳の変化が全体をどの程度の割合で変化させたかを表している。

$$\text{対前年増減寄与度} = \frac{\text{各部門指数（当年指数－前年指数）} \times \text{ウェイト}}{\text{（総合指数（前年指数）} \times \text{ウェイト）} \times 100.0}$$

③本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	：	±1%未満
わずかに	：	±1～3%未満
やや	：	±3～6%未満
かなりの程度	：	±6～11%未満
かなり大きく	：	±11～16%未満
大幅に	：	±16%以上

食品製造業 総合

(1) 生産指数

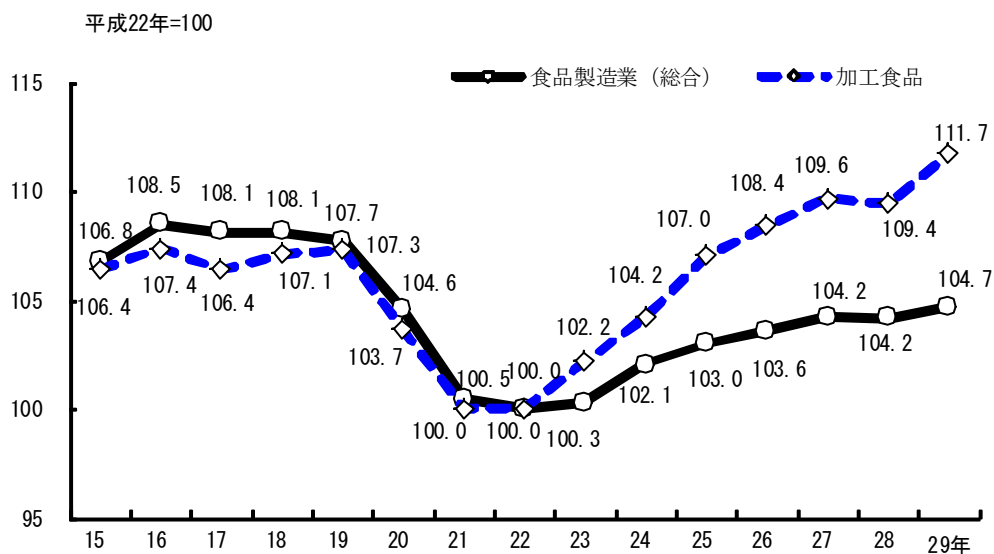
平成29年の食品製造業（総合）の生産指数は104.7で、対前年比0.5%と前年並み

平成29年の食品製造業（総合）の生産指数（平成22年=100、暫定値）は104.7で、対前年比0.5%と前年並みとなった。うち、飲料、酒類を除いた加工食品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は111.7で、対前年比2.1%とわずかに上昇した。

食品製造業（総合）の生産指数は、平成23年の東日本大震災後、平成24年には上昇となり回復したが、平成25年以降は前年並みで推移している。平成29年は調理食品が対前年比でプラスに寄与している。一方、酒類は対前年比でマイナスに寄与している。

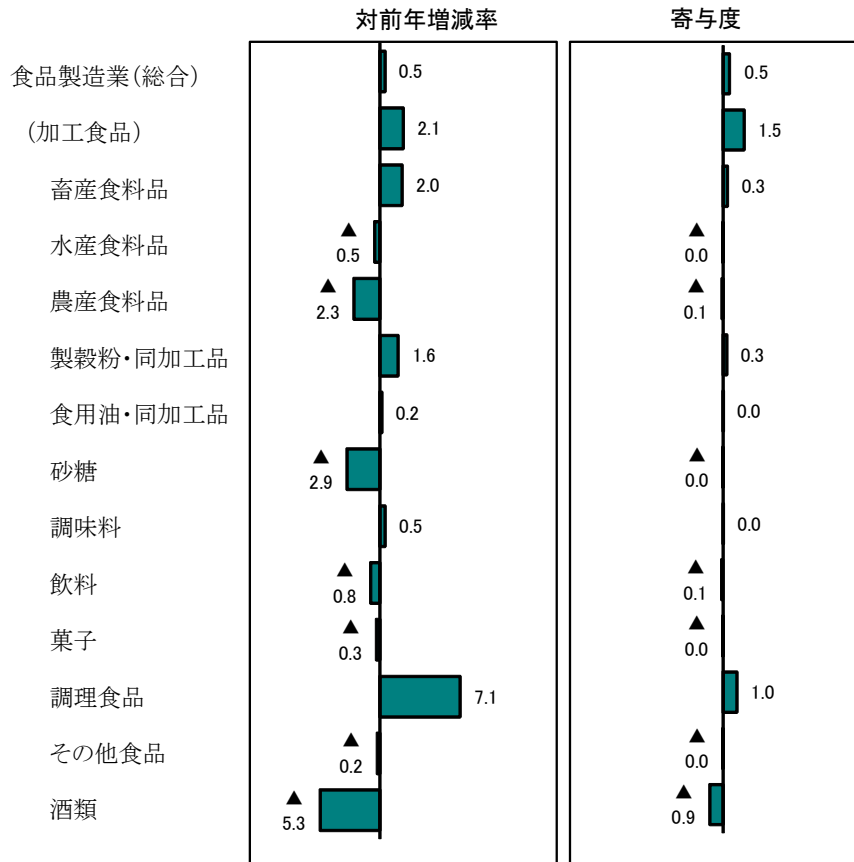
分野別にみると、調理食品が対前年比でかなりの程度上昇し、畜産食料品及び製穀粉・同加工品がわずかに上昇した。一方、酒類が対前年比でやや低下し、農産食料品及び砂糖がわずかに低下した。また、水産食料品、食用油・同加工品、調味料、飲料、菓子及びその他食品は前年並みとなった。

図2-1 食品製造業生産指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-2 食品製造業の生産指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品) は、食品製造業(総合) から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-1 食品製造業の生産指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
		22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	104.2	104.2	104.7	▲ 0.5	0.6	▲ 0.0	0.5	0.5
(加工食品)	6,755.5	100.0	109.6	109.4	111.7	▲ 0.0	1.1	▲ 0.2	2.1	1.5
畜産食料品	1,581.5	100.0	102.8	104.0	106.0	▲ 0.5	▲ 0.0	1.1	2.0	0.3
水産食料品	321.0	100.0	99.3	97.0	96.5	4.3	▲ 0.8	▲ 2.3	▲ 0.5	▲ 0.0
農産食料品	451.3	100.0	87.6	85.3	83.4	▲ 1.6	0.8	▲ 2.6	▲ 2.3	▲ 0.1
製穀粉・同加工品	1,577.6	100.0	107.1	107.2	109.0	1.0	1.6	0.1	1.6	0.3
食用油・同加工品	360.2	100.0	113.8	112.9	113.1	▲ 4.6	0.6	▲ 0.8	0.2	0.0
砂糖	19.5	100.0	93.0	96.3	93.5	1.5	▲ 3.6	3.6	▲ 2.9	▲ 0.0
調味料	865.0	100.0	102.7	102.8	103.3	▲ 1.3	▲ 0.3	0.1	0.5	0.0
飲料	1,214.6	100.0	93.8	97.9	97.1	▲ 3.7	▲ 1.4	4.3	▲ 0.8	▲ 0.1
菓子	490.4	100.0	103.5	102.6	102.4	0.7	4.1	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 0.0
調理食品	984.0	100.0	147.0	145.9	156.3	0.8	2.3	▲ 0.8	7.1	1.0
その他食品	105.0	100.0	100.8	102.9	102.6	2.0	4.4	2.1	▲ 0.2	▲ 0.0
酒類	2,029.9	100.0	92.4	90.5	85.7	0.1	▲ 0.3	▲ 2.1	▲ 5.3	▲ 0.9

注：(加工食品) は、食品製造業(総合) から飲料、酒類を除いたもの。

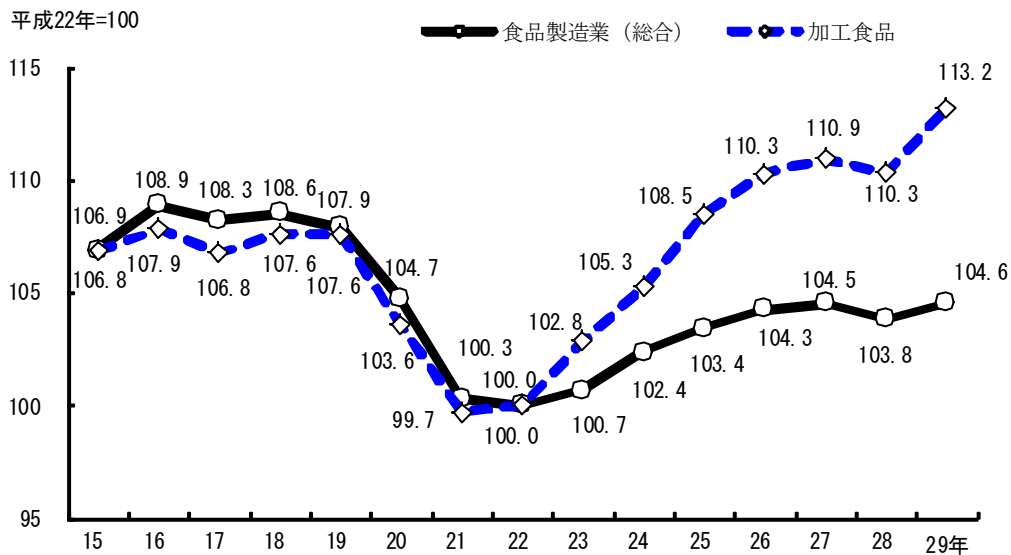
(2) 出荷指数

平成29年の食品製造業（総合）の出荷指数は104.6で、対前年比0.7%と前年並み

平成29年の食品製造業（総合）の出荷指数（平成22年=100）は104.6で、対前年比0.7%と前年並みとなった。うち、加工食品の出荷指数（平成22年=100）は113.2で、対前年比2.6%とわずかに上昇した。食品製造業（総合）の出荷指数は調理食品が対前年比でプラスに寄与し、一方、酒類が対前年比でマイナスに寄与している。

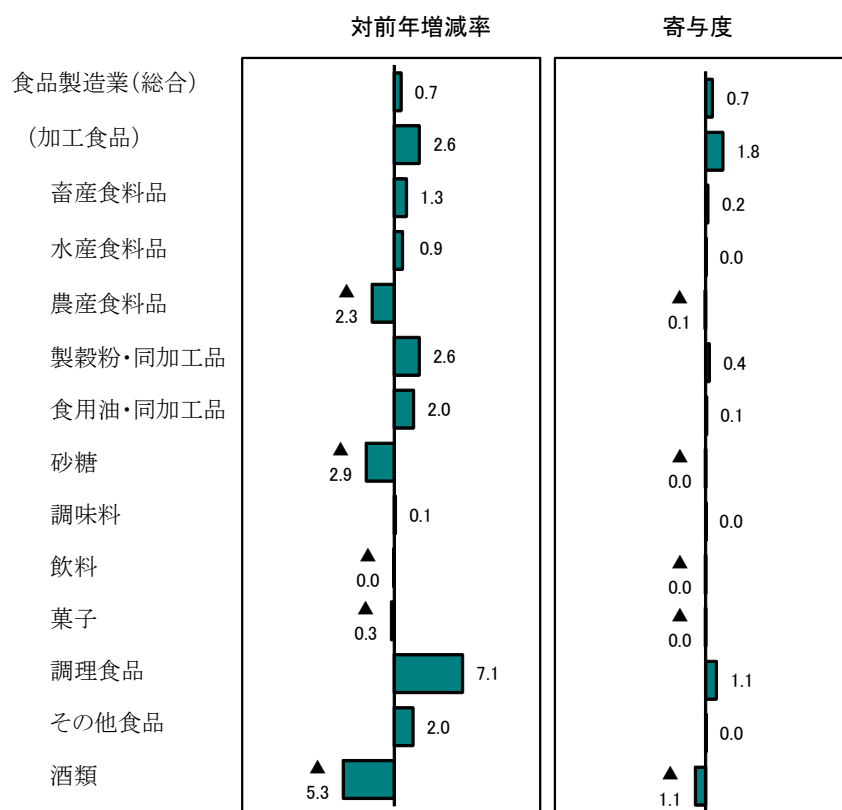
分野別にみると、調理食品が対前年比でかなりの程度上昇し、畜産食料品、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品及びその他食品がわずかに上昇した。一方、酒類が対前年比でやや低下し、農産食料品及び砂糖がわずかに低下した。また、水産食料品、調味料、飲料及び菓子は前年並みとなった。

図2-3 食品製造業出荷指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-4 食品製造業の出荷指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-2 食品製造業の出荷指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	29/28年
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	104.5	103.8	104.6	▲ 0.3	0.2	▲ 0.7	0.7	0.7
(加工食品)	6,390.0	100.0	110.9	110.3	113.2	0.3	0.6	▲ 0.5	2.6	1.8
畜産食料品	1,787.7	100.0	103.1	103.6	105.0	0.3	▲ 2.1	0.5	1.3	0.2
水産食料品	362.8	100.0	99.0	96.1	97.0	4.3	▲ 1.2	▲ 2.9	0.9	0.0
農産食料品	334.2	100.0	87.6	85.3	83.4	▲ 1.6	0.8	▲ 2.6	▲ 2.3	▲ 0.1
製穀粉・同加工品	1,423.3	100.0	107.0	106.5	109.3	1.1	1.3	▲ 0.5	2.6	0.4
食用油・同加工品	407.1	100.0	113.4	111.1	113.4	▲ 4.9	0.3	▲ 2.0	2.0	0.1
砂糖	22.1	100.0	93.0	96.3	93.5	1.5	▲ 3.6	3.6	▲ 2.9	▲ 0.0
調味料	267.6	100.0	96.5	98.2	98.3	▲ 0.8	▲ 0.8	1.8	0.1	0.0
飲料	1,315.6	100.0	94.5	95.4	95.4	▲ 4.1	▲ 1.0	0.9	▲ 0.0	▲ 0.0
菓子	554.3	100.0	103.5	102.6	102.4	0.7	4.1	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 0.0
調理食品	1,112.3	100.0	147.0	145.9	156.3	0.8	2.3	▲ 0.8	7.1	1.1
その他食品	118.6	100.0	101.9	101.1	103.1	1.4	5.9	▲ 0.7	2.0	0.0
酒類	2,294.4	100.0	92.4	90.5	85.7	0.1	▲ 0.3	▲ 2.1	▲ 5.3	▲ 1.1

注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

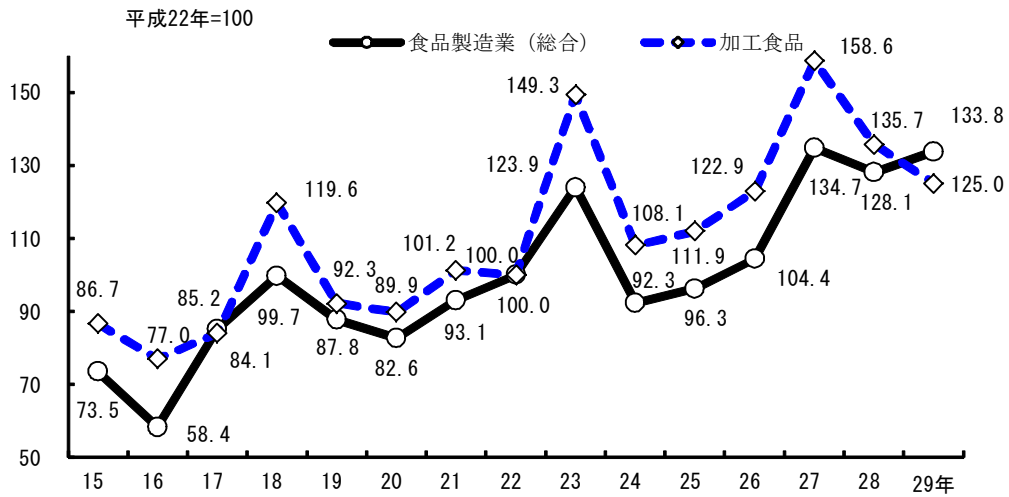
(3) 在庫指数

平成29年の食品製造業（総合）の在庫指数は133.8で、対前年比4.5%とやや上昇

平成29年の食品製造業（総合）の在庫指数（平成22年=100）は133.8で、対前年比4.5%とやや上昇した。うち、加工食品の在庫指数（平成22年=100）は125.0で、対前年比▲7.9%とかなりの程度低下した。

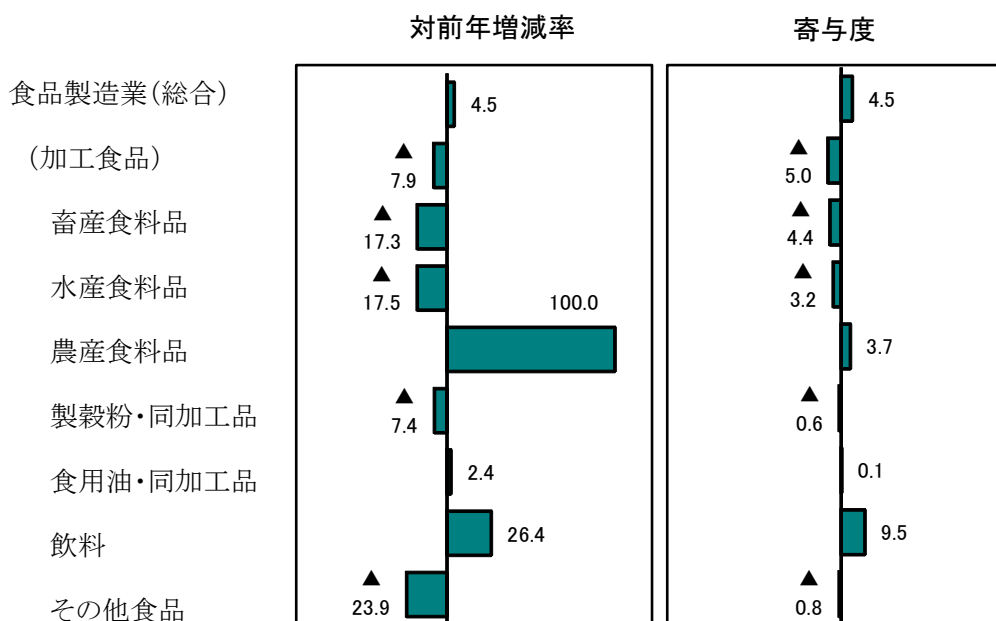
分野別にみると、農産食料品及び飲料が対前年比で大幅に上昇し、食用油・同加工品がわずかに上昇した。一方、畜産食料品、水産食料品及びその他食品が対前年比で大幅に低下し、製穀粉・同加工品がかなりの程度低下した。

図2-5 食品製造業在庫指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの。

図2-6 食品製造業の在庫指数の対前年増減率、寄与度



注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

表 2-3 食品製造業の在庫指数の推移

	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
		22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	134.7	128.1	133.8	7.4	29.0	▲ 4.9	4.5	4.5
(加工食品)	6,034.3	100.0	158.6	135.7	125.0	▲ 1.2	29.0	▲ 14.4	▲ 7.9	▲ 5.0
畜産食料品	1,455.0	100.0	232.6	223.0	184.3	▲ 14.1	65.4	▲ 4.1	▲ 17.3	▲ 4.4
水産食料品	1,605.0	100.0	184.2	144.0	118.8	15.3	41.5	▲ 21.8	▲ 17.5	▲ 3.2
農産食料品	1,001.5	100.0	94.1	47.2	94.5	15.5	▲ 1.5	▲ 49.8	100.0	3.7
製穀粉・同加工品	794.7	100.0	127.0	121.3	112.4	▲ 21.8	▲ 2.7	▲ 4.5	▲ 7.4	▲ 0.6
食用油・同加工品	716.1	100.0	127.6	108.4	111.0	▲ 2.4	22.2	▲ 15.1	2.4	0.1
飲料	3,965.7	100.0	98.3	116.5	147.2	23.8	29.1	18.5	26.4	9.5
その他食品	462.2	100.0	79.2	91.1	69.3	13.8	▲ 32.5	15.0	▲ 23.9	▲ 0.8

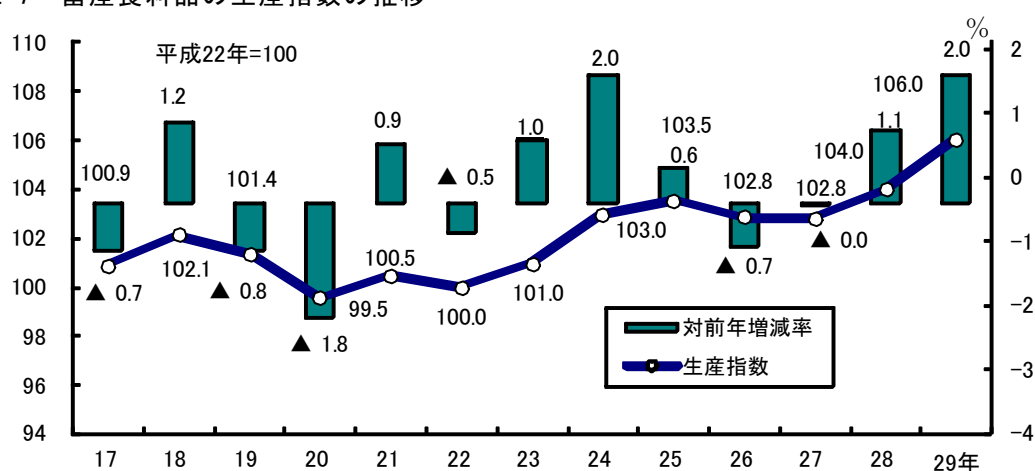
注：(加工食品)は、食品製造業(総合)から飲料、酒類を除いたもの。

1 畜産食料品

平成29年の畜産食料品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は106.0で、対前年比2.0%とわずかに上昇した。平成29年は平成28年に引き続き、対前年比で上昇した。なかでも食肉加工品、飲用牛乳等、はっ酵乳・乳酸菌飲料、乳製品、アイスクリームが対前年比でプラスに寄与している。

品目別にみると、アイスクリームが対前年比でかなりの程度上昇し、食肉加工品がやや上昇し、飲用牛乳類がわずかに上昇した。一方、食肉缶・びん詰及びびん飲料が対前年比でやや低下した。また、はっ酵乳・乳酸菌飲料及び乳製品は前年並みとなった。

図2-7 畜産食料品の生産指数の推移



食肉加工品はやや上昇、ハム類及びベーコン類はやや上昇、ソーセージ類はわずかに上昇

食肉加工品の生産量は55万3千トンで、生産指数は対前年比3.4%とやや上昇した。内訳についてみると、ハム類の生産量は11万トンで、生産指数は対前年比5.2%とやや上昇、ベーコン類については生産量が9万5千トンで、生産指数は対前年比3.8%とやや上昇、ソーセージ類については生産量が31万9千トンで、生産指数は対前年比2.7%でわずかに上昇した。

飲用牛乳等はわずかに上昇、乳飲料はやや低下、はっ酵乳・乳酸菌飲料は前年並み

飲用牛乳等の生産量は352万9千klで、生産指数は対前年比1.1%とわずかに上昇した。また、乳飲料は117万7千klで、生産指数は対前年比▲4.8%でやや低下した。また、はっ酵乳・乳酸菌飲料は182万8千klで、生産指数は対前年比0.7%と前年並みとなった。

乳製品は前年並み、チーズはやや上昇、脱脂粉乳はやや低下、バターはかなりの程度低下

乳製品の生産指数は103.2で対前年比0.7%と前年並みとなった。内訳についてみるとチーズの生産量は14万9千トンで、生産指数は対前年比3.4%とやや上昇した。脱脂粉乳の生産量は12万1千トンで、生産指数は対前年比▲5.1%とやや低下した。また、バターについても6万トンで、生産指数は対前年比▲9.7%とかなりの程度低下した。

図2-8 畜産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

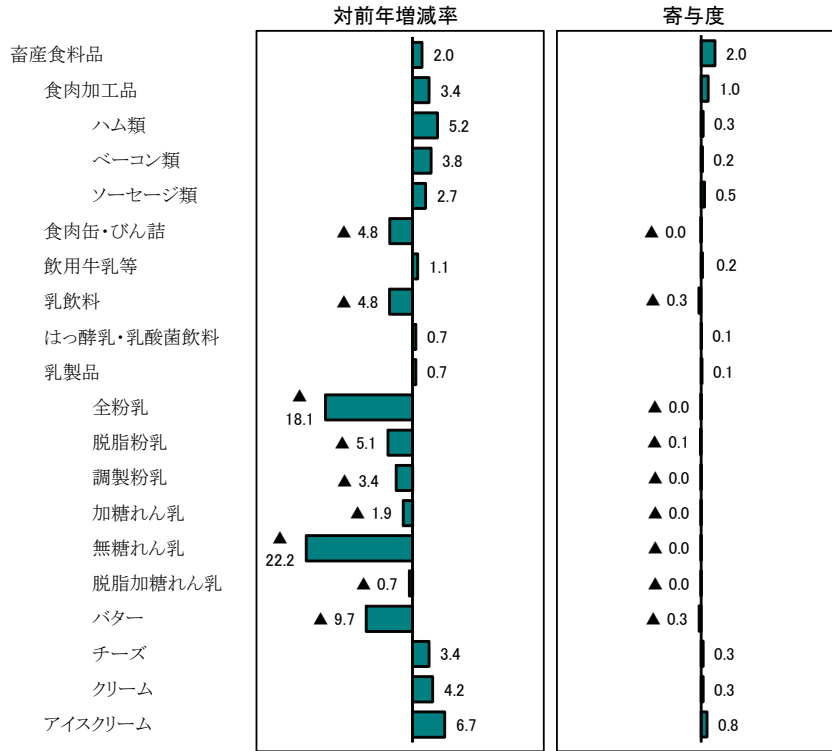


表 2-4 畜産食料品の品目別生産指数の推移

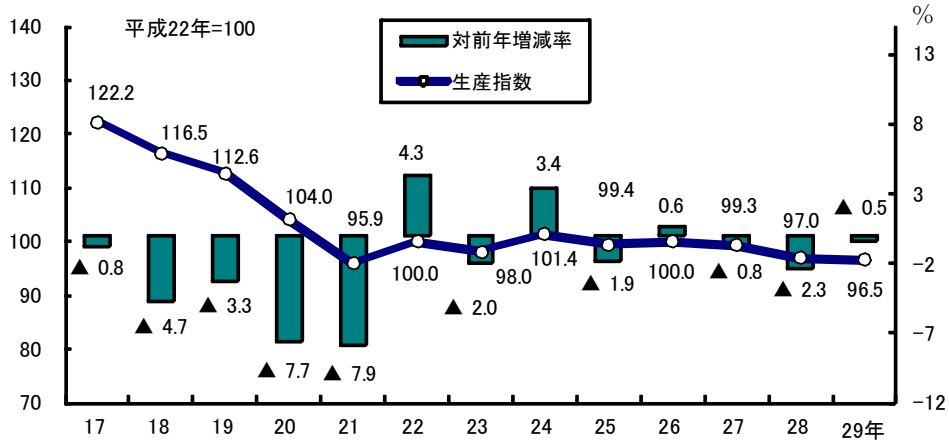
品目	年次 (22年)	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
			22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
畜産食料品	1,581.5	100.0	102.8	104.0	106.0	▲ 0.5	▲ 0.0	1.1	2.0	2.0	
食肉加工品	457.8	100.0	104.8	106.3	109.9	▲ 0.9	▲ 1.2	1.4	3.4	1.0	
ハム類	99.1	100.0	101.5	101.6	106.9	▲ 2.2	▲ 1.2	0.1	5.2	0.3	
ベーコン類	77.7	100.0	109.3	113.2	117.5	▲ 0.5	1.8	3.6	3.8	0.2	
ソーセージ類	280.9	100.0	104.8	106.0	108.9	▲ 0.5	▲ 2.0	1.2	2.7	0.5	
食肉缶・びん詰	1.5	100.0	94.5	88.5	84.3	4.3	▲ 7.7	▲ 6.3	▲ 4.8	▲ 0.0	
飲用牛乳等	370.8	100.0	92.3	93.2	94.2	▲ 1.5	0.0	1.0	1.1	0.2	
乳飲料	103.5	100.0	107.8	102.1	97.2	2.1	▲ 1.9	▲ 5.3	▲ 4.8	▲ 0.3	
はっ酵乳・乳酸菌飲料	122.7	100.0	122.6	126.5	127.3	1.3	3.4	3.1	0.7	0.1	
乳製品	334.2	100.0	103.0	102.6	103.2	▲ 1.3	5.5	▲ 0.5	0.7	0.1	
全粉乳	3.0	100.0	89.5	86.8	71.1	5.5	▲ 1.8	▲ 3.0	▲ 18.1	▲ 0.0	
脱脂粉乳	35.3	100.0	82.6	82.0	77.8	▲ 7.0	7.3	▲ 0.8	▲ 5.1	▲ 0.1	
調製粉乳	7.5	100.0	79.9	83.9	81.1	▲ 5.6	▲ 1.3	5.1	▲ 3.4	▲ 0.0	
加糖れん乳	8.2	100.0	95.6	97.3	95.4	▲ 7.5	2.6	1.7	▲ 1.9	▲ 0.0	
無糖れん乳	0.2	100.0	66.4	63.2	49.2	1.4	▲ 6.2	▲ 4.9	▲ 22.2	▲ 0.0	
脱脂加糖れん乳	1.0	100.0	83.5	78.3	77.7	▲ 15.9	▲ 5.8	▲ 6.2	▲ 0.7	▲ 0.0	
バター	53.2	100.0	88.0	89.9	81.2	▲ 8.8	6.7	2.2	▲ 9.7	▲ 0.3	
チーズ	119.5	100.0	113.8	115.3	119.2	2.3	12.1	1.3	3.4	0.3	
クリーム	106.3	100.0	108.0	103.8	108.2	1.9	▲ 1.4	▲ 3.9	4.2	0.3	
アイスクリーム	191.1	100.0	102.7	108.6	115.8	1.5	▲ 7.4	5.7	6.7	0.8	

2 水産食料品

平成29年の水産食料品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は96.5で、対前年比▲0.5%と前年並みとなった。

品目別にみると、ちくわ・かまぼこ類は前年並みとなった。一方、水産缶・びん詰はやや低下した。

図2-9 水産食料品の生産指数の推移



ちくわ・かまぼこ類は前年並み、水産缶・びん詰はやや低下

ちくわ・かまぼこ類の生産量は45万7千トンで、生産指数は対前年比0.4%と前年並みとなった。一方、水産缶・びん詰の生産量は10万6千トンで、生産指数は対前年比▲3.6%とやや低下した。

図2-10 水産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

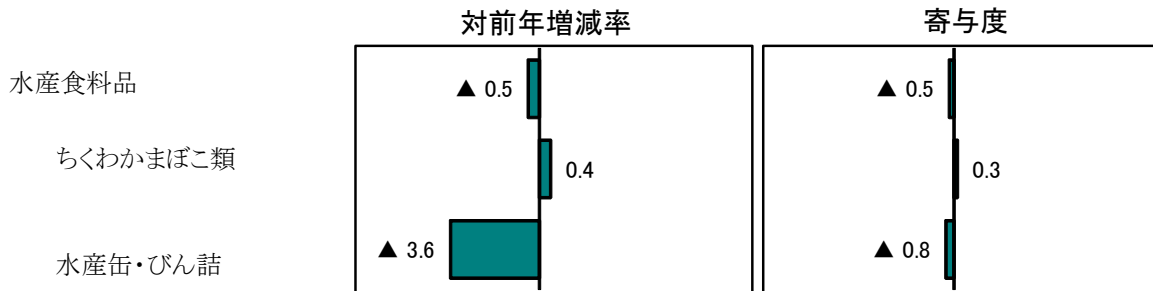


表 2-5 水産食料品の品目別生産指数の推移

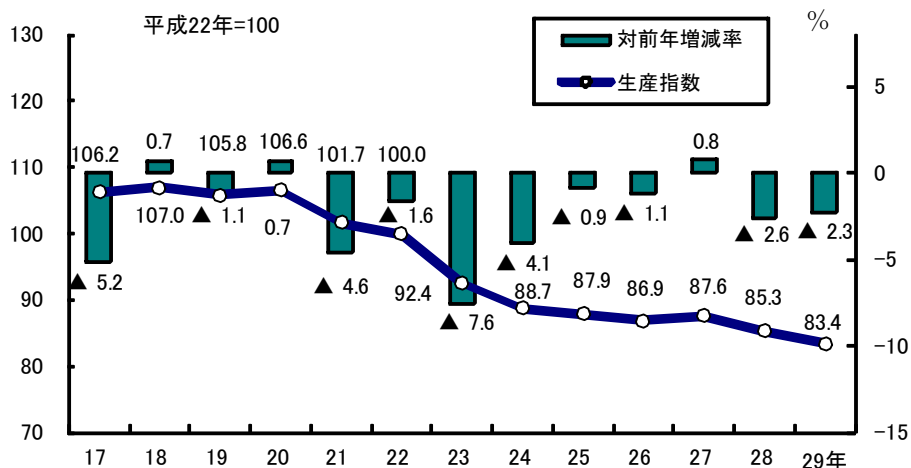
品目	年次	ウェイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
			22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
水産食料品		321.0	100.0	99.3	97.0	96.5	4.3	▲ 0.8	▲ 2.3	▲ 0.5	▲ 0.5
ちくわかまぼこ類		249.5	100.0	100.4	97.0	97.4	6.6	0.0	▲ 3.3	0.4	0.3
水産缶・びん詰		71.5	100.0	95.5	96.7	93.2	▲ 2.9	▲ 3.4	1.3	▲ 3.6	▲ 0.8

3 農産食料品

平成 29 年の農産食料品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 83.4 で、対前年比▲ 2.3 %とわずかに低下した。

品目別にみると、農産缶・びん詰及び野菜・果実漬物がやや低下した。また、乾燥野菜及びトマト加工品は前年並みとなった。

図2-11 農産食料品の生産指数の推移



野菜・果実漬物はやや低下

野菜・果実漬物の生産量は 69 万 2 千トンで、生産指数は対前年比▲ 3.0 %とやや低下した。内訳についてみると、塩漬類の生産量は 11 万 3 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.8 %とわずかに低下、酢漬類の生産量は 8 万 7 千トンで、生産指数は対前年比 7.7 %とかなりの程度の上昇となった。浅漬類の生産量は 13 万トンで、生産指数は対前年比▲ 0.3 %と前年並みとなった。また、醤油漬類も 27 万 7 千トンで、生産指数は対前年比▲ 7.6 %とかなりの程度低下した。

農産缶・びん詰はやや低下

農産缶・びん詰の生産量は 13 万 1 千トンで、生産指数は対前年比▲ 3.7 %とやや低下した。内訳についてみると、野菜缶が 4 万 9 千トンで、生産指数は対前年比▲ 3.7 %とやや低下した。近年、加工野菜の消費については多様化しており、レトルトや冷凍、カット野菜での消費、また紙パックでの野菜ジュースの浸透等も野菜缶の減少に影響しているとみられる。また果実缶は 4 万 9 千トンで、生産指数は対前年比▲ 4.0 %、ジャムびんの生産量は 3 万 4 千トンで、生産指数は対前年比▲ 3.1 %といずれもやや低下した。

トマト加工品は前年並み

トマト加工品の生産量は 9 万 8 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.8 %と前年並みとなった。トマトピューレの生産量は前年を上回ったものの、トマトケチャップ及びその他ト

マトの生産量は前年を下回ったため、全体では前年並みとなった。

図2-12 農産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

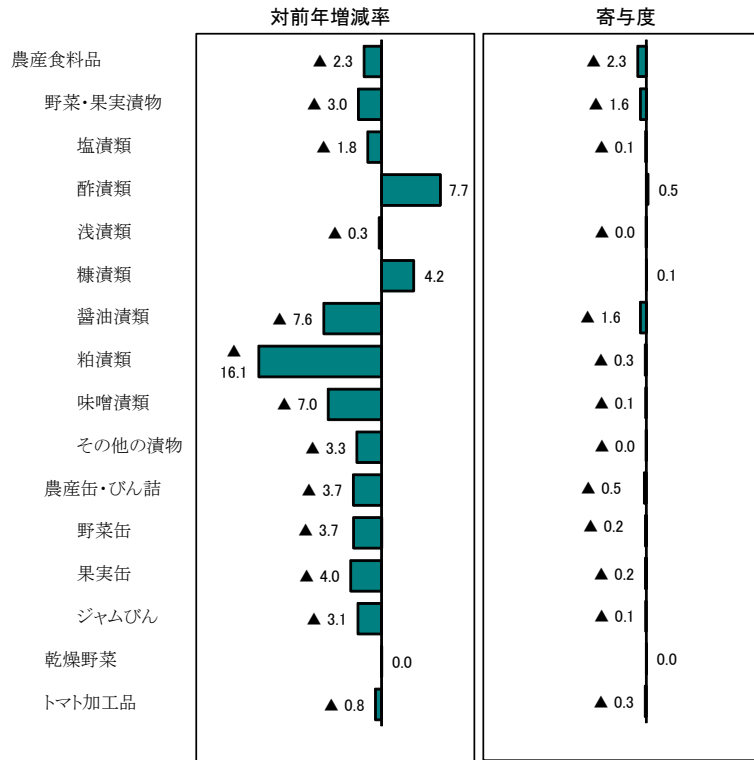


表 2-6 農産食料品の品目別生産指数の推移

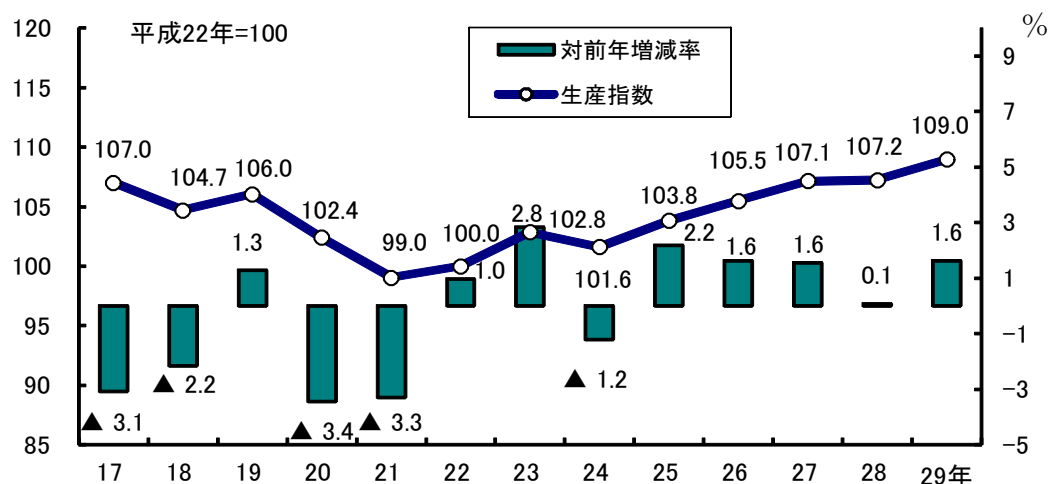
品目	年次 ウエイト (22年)	指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
		22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
農産食料品	451.3	100.0	87.6	85.3	83.4	▲ 1.6	0.8	▲ 2.6	▲ 2.3	▲ 2.3
野菜・果実漬物	234.3	100.0	82.8	81.8	79.3	▲ 4.1	2.5	▲ 1.3	▲ 3.0	▲ 1.6
塩漬類	36.0	100.0	81.0	85.4	83.8	1.6	8.4	5.3	▲ 1.8	▲ 0.1
酢漬類	26.5	100.0	75.8	82.2	88.5	▲ 0.4	6.0	8.4	7.7	0.5
浅漬類	41.7	100.0	86.4	83.7	83.4	▲ 0.3	13.3	▲ 3.1	▲ 0.3	▲ 0.0
糠漬類	20.0	100.0	62.3	61.3	63.9	▲ 10.0	▲ 7.9	▲ 1.7	4.2	0.1
醤油漬類	96.2	100.0	89.1	83.6	77.3	▲ 8.1	▲ 2.0	▲ 6.1	▲ 7.6	▲ 1.6
粕漬類	9.2	100.0	67.2	68.9	57.8	6.4	▲ 8.1	2.5	▲ 16.1	▲ 0.3
味噌漬類	2.0	100.0	101.9	135.7	126.2	▲ 1.7	28.6	33.2	▲ 7.0	▲ 0.1
その他の漬物	2.7	100.0	90.5	92.2	89.2	▲ 5.5	1.7	1.9	▲ 3.3	▲ 0.0
農産缶・びん詰	61.3	100.0	91.3	84.2	81.1	1.6	▲ 1.9	▲ 7.7	▲ 3.7	▲ 0.5
野菜缶	28.2	100.0	88.6	77.6	74.8	▲ 1.1	0.2	▲ 12.4	▲ 3.7	▲ 0.2
果実缶	22.8	100.0	90.6	86.1	82.7	5.9	▲ 4.6	▲ 5.0	▲ 4.0	▲ 0.2
ジャムびん	10.3	100.0	99.7	97.8	94.8	0.3	▲ 1.0	▲ 1.9	▲ 3.1	▲ 0.1
乾燥野菜	14.2	100.0	51.6	51.7	51.7	▲ 3.6	0.0	0.2	0.0	0.0
トマト加工品	141.5	100.0	97.6	95.1	94.3	1.4	▲ 0.3	▲ 2.6	▲ 0.8	▲ 0.3

4 製穀粉・同加工品

平成 29 年の製穀粉・同加工品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 109.0 で、対前年比 1.6 %とわずかに上昇した。平成 28 年は対前年比で横這いで推移したが、平成 29 年は、再び上昇している。

品目別にみると、製粉・穀粉、めん類、パン及びパン粉のいずれもわずかに上昇した。

図2-13 製穀粉・同加工品の生産指数の推移



製粉・穀粉はわずかに上昇

製粉・穀粉の生産量は 45 万 6 千トンで、生産指数は対前年比 1.7 %とわずかに上昇した。プレミックスが 0.3 %で前年並みだったものの、米穀粉が 2.3 %とわずかに上昇した。

めん類はわずかに上昇、生めん類はやや上昇、即席めん類は前年並み

めん類の生産量は 144 万 5 千トンで、生産指数は対前年比 1.9 %とわずかに上昇した。内訳についてみると、生めん類の生産量は 69 万 1 千トンで、生産指数は対前年比 5.9 %とやや上昇した。一方、乾めん類は 18 万 6 千トンで、生産指数は対前年比 0.4 %と前年並みとなった。即席めん類は 41 万 6 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.7 %と前年並みとなった。また、マカロニ類は 15 万 2 千トンで、生産指数は対前年比 0.1 %と前年並みとなった。

パンはわずかに上昇

パンの生産量は 125 万 4 千トンで、生産指数は対前年比 1.3 %とわずかに上昇した。内訳についてみると、食パンの生産量は 60 万 2 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.4 %と前年並み、菓子パンは 40 万 9 千トンで、生産指数は対前年比 1.5 %とわずかに上昇した。学給パンは 2 万 5 千トンで、生産指数は対前年比 2.4 %とわずかに上昇した。また、その他パンは 21 万 8 千トンで、生産指数は対前年比 5.8 %とやや上昇した。

図2-14 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

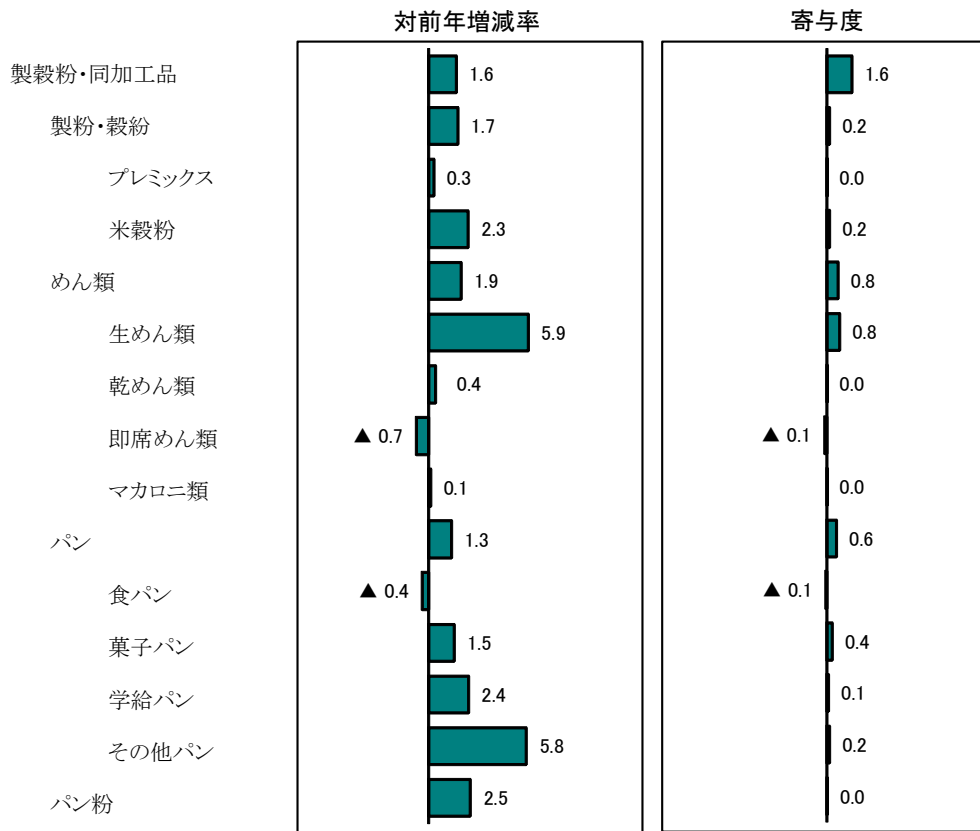


表 2-7 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の推移

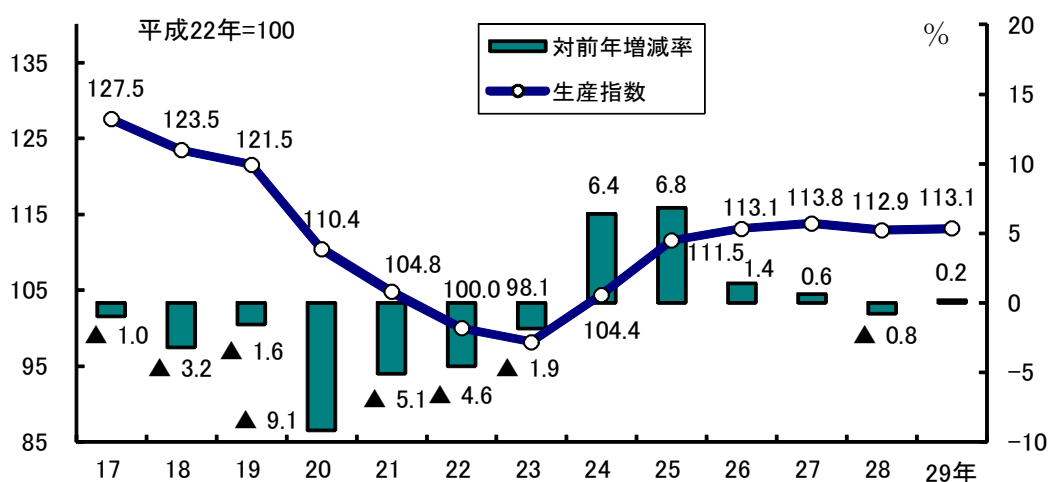
品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
		22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
製穀粉・同加工品	1,577.6	100.0	107.1	107.2	109.0	1.0	1.6	0.1	1.6	1.6
製粉・穀粉	172.5	100.0	110.6	108.2	110.0	1.1	5.0	▲ 2.2	1.7	0.2
プレミックス	58.6	100.0	97.2	94.8	95.0	3.5	0.9	▲ 2.5	0.3	0.0
米穀粉	113.9	100.0	117.5	115.1	117.8	▲ 0.1	6.8	▲ 2.1	2.3	0.2
めん類	587.0	100.0	113.0	113.9	116.1	▲ 1.3	1.1	0.9	1.9	0.8
生めん類	206.6	100.0	112.5	117.6	124.5	▲ 2.6	8.1	4.5	5.9	0.8
乾めん類	123.5	100.0	96.2	91.6	92.0	4.8	▲ 8.5	▲ 4.8	0.4	0.0
即席めん類	221.8	100.0	124.6	126.1	125.2	▲ 3.9	0.9	1.2	▲ 0.7	▲ 0.1
マカロニ類	35.1	100.0	101.5	94.5	94.6	3.2	▲ 4.0	▲ 6.9	0.1	0.0
パン	787.4	100.0	102.1	102.1	103.4	2.7	1.1	▲ 0.0	1.3	0.6
食パン	224.3	100.0	105.0	104.9	104.5	0.6	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 0.1
菓子パン	389.5	100.0	107.4	107.4	109.0	5.1	4.3	0.0	1.5	0.4
学給パン	115.2	100.0	82.9	81.6	83.5	1.5	▲ 3.7	▲ 1.6	2.4	0.1
その他パン	58.4	100.0	93.7	95.8	101.3	▲ 2.0	▲ 5.7	2.2	5.8	0.2
パン粉	30.7	100.0	104.4	105.0	107.6	1.5	2.3	0.6	2.5	0.0

5 食用油・同加工品

平成 29 年の食用油・同加工品の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 113.1 で、対前年比 0.2 %と前年並みとなった。平成 23 年までは低下傾向で推移し、その後は前年を上昇傾向で推移していたが、平成 26 年以降は対前年比で横這いで推移している

品目別にみると、植物油脂は対前年比でやや上昇した。一方、加工油脂は、わずかに低下した。

図2-15 食用油・同加工品の生産指数の推移



植物油脂はやや上昇、加工油脂はわずかに低下

植物油脂の生産量は 173 万 6 千トンで、生産指数は対前年比 3.5 %とやや上昇した。一方、加工油脂の生産量は 70 万 8 千トンで、生産指数は対前年比▲ 1.1 %とわずかに低下した。加工油脂について内訳をみると、マーガリンは 15 万 1 千トンで、生産指数は対前年比▲ 0.4 %と前年並みとなった。また、食用精製加工油脂は 4 万トンで、生産指数は対前年比▲ 0.6 %と前年並みとなった。

図2-16 食用油・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

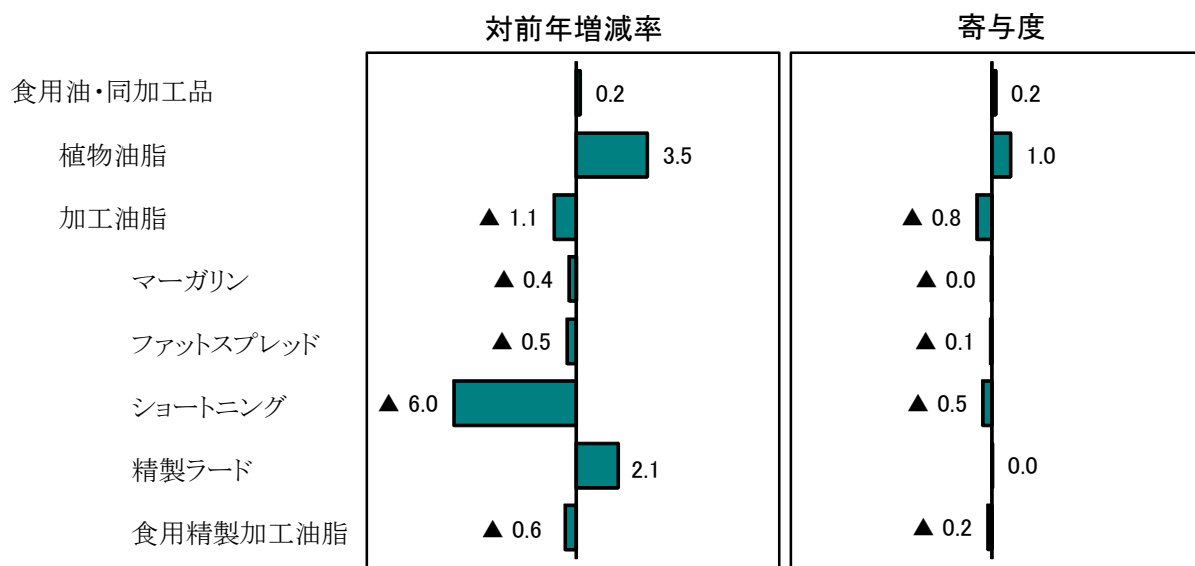


表 2-8 食用油・同加工品の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
		22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
食用油・同加工品	360.2	100.0	113.8	112.9	113.1	▲ 4.6	0.6	▲ 0.8	0.2	0.2
植物油脂	111.3	100.0	102.3	101.2	104.8	3.5	1.9	▲ 1.0	3.5	1.0
加工油脂	248.9	100.0	119.0	118.2	116.9	▲ 7.7	0.2	▲ 0.7	▲ 1.1	▲ 0.8
マーガリン	31.2	100.0	98.1	98.3	97.9	▲ 0.9	0.8	0.1	▲ 0.4	▲ 0.0
ファットスプレッド	69.7	100.0	96.9	97.0	96.6	▲ 2.9	0.9	0.2	▲ 0.5	▲ 0.1
ショートニング	26.7	100.0	122.2	122.8	115.4	▲ 1.4	2.3	0.6	▲ 6.0	▲ 0.5
精製ラード	5.3	100.0	81.4	81.4	83.1	▲ 45.0	▲ 13.1	0.1	2.1	0.0
食用精製加工油脂	115.9	100.0	138.8	136.8	136.1	▲ 10.6	▲ 0.3	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 0.2

6 砂糖

平成 29 年の砂糖の生産指数（平成 22 年=100、一部推定を含む暫定値）は 93.5 で、対前年比▲ 2.9 %とわずかに低下した。

近年の砂糖の推移についてみると、平成 25 年以降低下傾向で推移していたが、平成 28 年には対前年比で上昇に転じたが、平成 29 年には再び低下している。

品目別にみると、中白が対前年比で大幅に低下し、中双がかなり大きく低下し、三温及び角糖がかなりの程度低下し、白双及び上白がやや低下し、液糖がわずかに低下した。また、グラニュー糖及び氷糖は前年並みとなった。

図2-17 砂糖の生産指数の推移

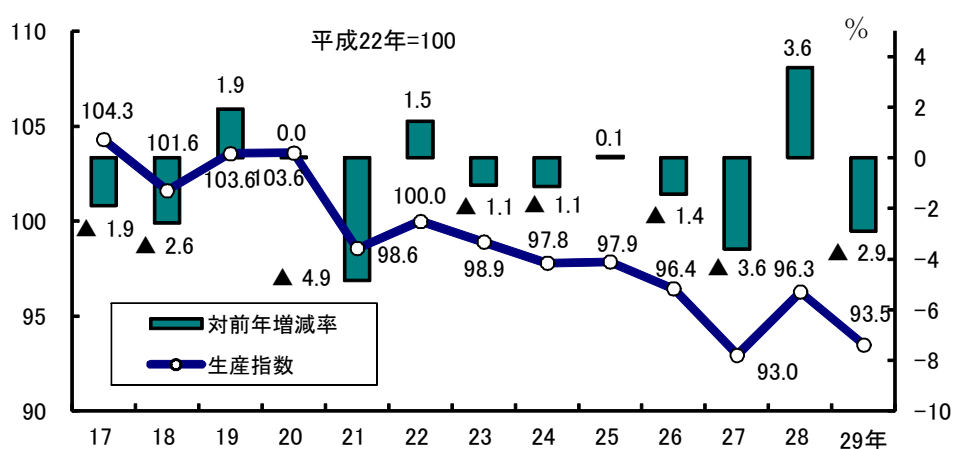


図 2-18 砂糖の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

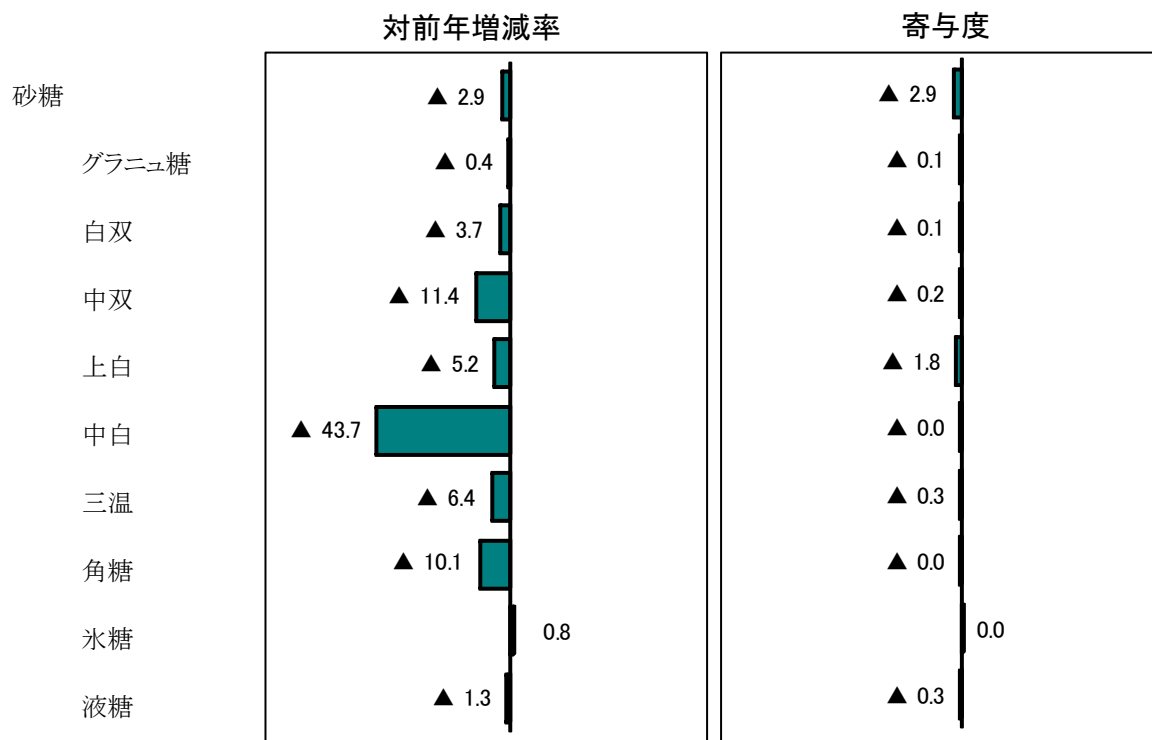


表2-9 砂糖の品目別生産指数の推移

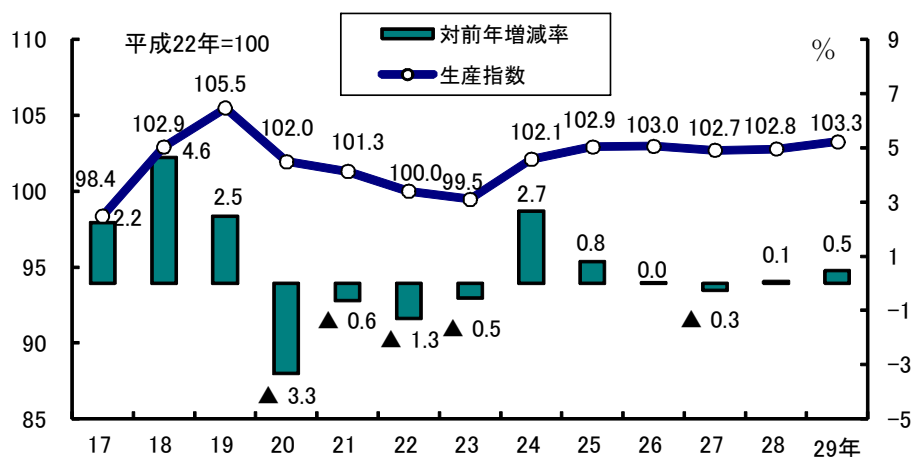
品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
		22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
砂糖	19.5	100.0	93.0	96.3	93.5	1.5	▲ 3.6	3.6	▲ 2.9	▲ 2.9
グラニュー糖	5.9	100.0	93.6	96.2	95.8	8.1	▲ 1.3	2.7	▲ 0.4	▲ 0.1
白双	0.4	100.0	94.0	95.6	92.0	▲ 3.2	2.2	1.7	▲ 3.7	▲ 0.1
中双	0.4	100.0	78.9	78.7	69.7	▲ 2.6	0.6	▲ 0.2	▲ 11.4	▲ 0.2
上白	7.3	100.0	86.1	90.3	85.6	▲ 3.7	▲ 6.9	4.9	▲ 5.2	▲ 1.8
中白	0.0	100.0	80.7	107.1	60.3	▲ 1.6	3.7	32.7	▲ 43.7	▲ 0.0
三温	1.0	100.0	94.0	97.0	90.8	▲ 2.8	▲ 0.0	3.2	▲ 6.4	▲ 0.3
角糖	0.1	100.0	58.8	57.9	52.1	8.7	▲ 2.7	▲ 1.5	▲ 10.1	▲ 0.0
氷糖	0.1	100.0	85.9	100.2	101.0	▲ 12.2	▲ 16.4	16.7	0.8	0.0
液糖	4.2	100.0	105.7	108.9	107.5	3.1	▲ 2.8	3.0	▲ 1.3	▲ 0.3

7 調味料

平成 29 年の調味料の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 103.3 で、対前年比 0.5 % と前年並みとなった。

品目別にみると、みそは対前年比でわずかに上昇し、しょうゆ等、マヨネーズ及びドレッシングは前年並みとなった。

図2-19 調味料の生産指数の推移



しょうゆ等は前年並み、味噌はわずかに上昇

しょうゆ等の生産量は 107 万 6 千 kl で、生産指数は対前年比 ▲ 0.6 % と前年並みとなった。また、味噌も 48 万 2 千トンで、生産指数は対前年比 1.3 % とわずかに上昇した。

マヨネーズ、ドレッシングはいずれも前年並み

マヨネーズの生産量は 22 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 0.4 % と前年並みとなった。また、ドレッシングの生産量は 19 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 0.7 % と前年並みとなった。

図2-20 調味料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

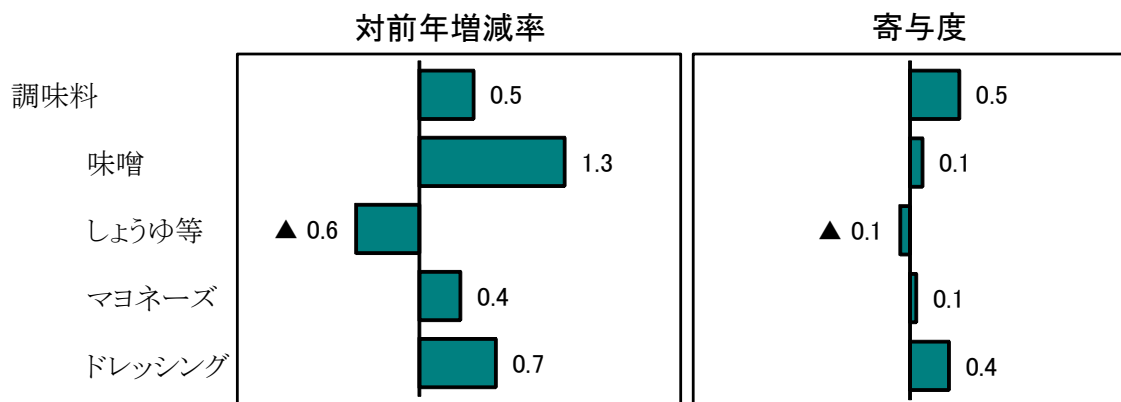


表 2-10 調味料の品目別生産指数の推移

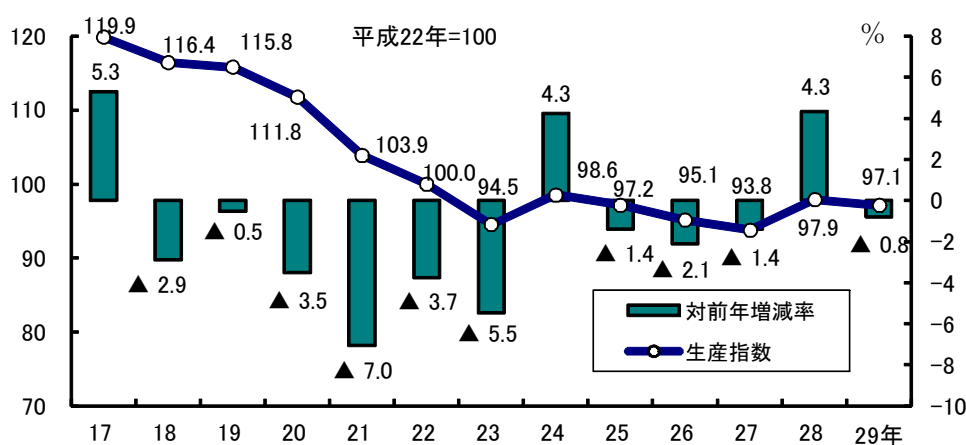
品目	年次	ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
			22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
調味料		865.0	100.0	102.7	102.8	103.3	▲ 1.3	▲ 0.3	0.1	0.5	0.5
味噌		83.9	100.0	100.0	103.1	104.4	1.1	0.1	3.1	1.3	0.1
しょうゆ等		152.8	100.0	94.6	95.5	95.0	▲ 1.8	▲ 1.4	1.0	▲ 0.6	▲ 0.1
マヨネーズ		142.9	100.0	105.1	108.7	109.1	▲ 2.3	0.7	3.4	0.4	0.1
ドレッシング		485.4	100.0	105.0	103.3	103.9	▲ 1.2	▲ 0.3	▲ 1.7	0.7	0.4

8 飲料

平成 29 年の飲料の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 97.1 で、対前年比▲ 0.8 %と前年並みとなった。

品目別にみるとトマト飲料が対前年比で大幅に上昇し、一方、炭酸飲料及び果実飲料はいずれもやや低下し、コーヒー・茶系飲料は前年並みとなった。近年の飲料の推移についてみると、平成 25 年以降低下傾向で推移していたのが、平成 28 年に対前年比で上昇に転じたが、平成 29 年は横這いで推移している。

図2-21 飲料の生産指数の推移



炭酸飲料、果実飲料はいずれもやや低下

炭酸飲料の生産量は 223 万 kl で、生産指数は対前年比▲ 4.2 %とやや低下した。また、果実飲料は生産量が 81 万 5 千 kl で、生産指数は対前年比▲ 3.1 %とやや低下した。

コーヒー・茶系飲料は前年並み

コーヒー・茶系飲料の生産量は 905 万 7 千 kl で、生産指数は対前年比▲ 0.9 %と前年並みとなった。

トマト飲料は大幅に上昇

トマト飲料の生産量は 9 万 7 千 kl で、生産指数は対前年比 24.3 %と大幅に上昇した。

大手メーカーが機能性表示食品としてのトマトジュースを開発・販売したことによる需要増大の継続が一因と考えられる。

図2-22 飲料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

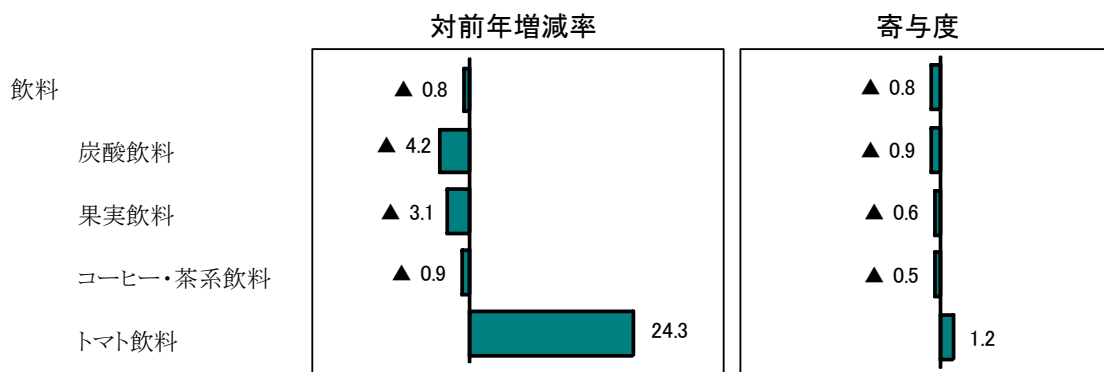


表 2-11 飲料の品目別生産指数の推移

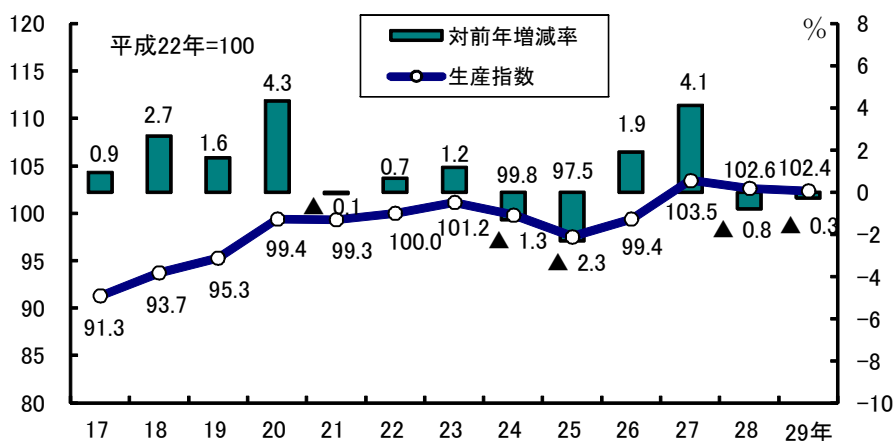
品目	年次 ウエイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
		22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
飲料	1,214.6	100.0	93.8	97.9	97.1	▲ 3.7	▲ 1.4	4.3	▲ 0.8	▲ 0.8
炭酸飲料	261.8	100.0	95.2	93.6	89.7	2.7	▲ 3.4	▲ 1.7	▲ 4.2	▲ 0.9
果実飲料	285.5	100.0	69.5	74.2	71.9	▲ 18.0	▲ 6.9	6.7	▲ 3.1	▲ 0.6
コーヒー・茶系飲料	616.5	100.0	104.4	109.5	108.5	1.2	1.9	4.9	▲ 0.9	▲ 0.5
トマト飲料	50.7	100.0	94.7	111.9	139.1	2.5	▲ 8.8	18.1	24.3	1.2

9 菓子

平成 29 年の菓子の生産指数（平成 22 年=100、暫定値）は 102.4 で、対前年比▲ 0.3 %と前年並みとなった。

品目別にみると、米菓は対前年比でわずかに上昇した。一方、またビスケットはわずかに低下した。

図2-23 菓子の生産指数の推移



ビスケットはわずかに低下み、米菓はわずかに上昇

ビスケットの生産量は 25 万 2 千トンで、生産指数は対前年比▲ 2.2 %とわずかに低下した。一方、米菓の生産量は 22 万 3 千トンで、生産指数は対前年比 2.4 %とわずかに上昇した。

図2-24 菓子の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

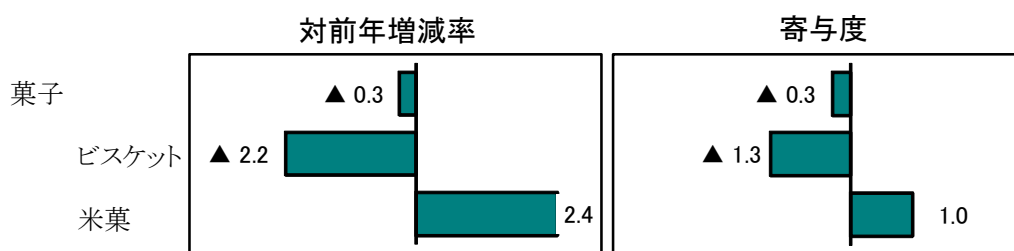


表 1-12 菓子の品目別生産指数の推移

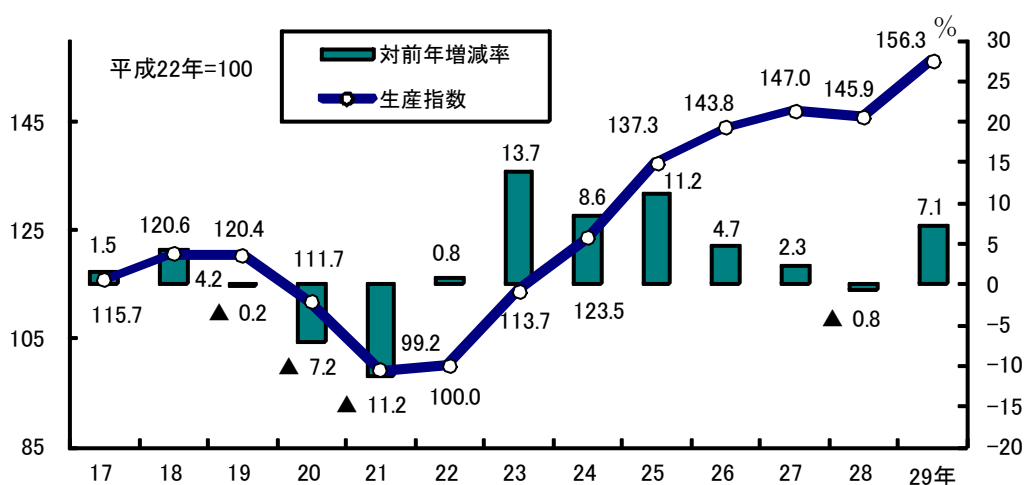
品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
		22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
菓子	490.4	100.0	103.5	102.6	102.4	0.7	4.1	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 0.3
ビスケット	274.7	100.0	107.3	106.7	104.4	▲ 0.6	5.9	▲ 0.5	▲ 2.2	▲ 1.3
米菓	215.7	100.0	98.6	97.4	99.7	2.3	1.7	▲ 1.2	2.4	1.0

10 調理食品

平成29年の調理食品の生産指数（平成22年=100、暫定値）は156.3で、対前年比7.1%とかなりの程度上昇した。

近年の調理食品の推移についてみると、平成21年まで減少傾向で推移したが、その後は上昇に転じており、特に平成23年の東日本大震災以降は備蓄需要の高まりから、無菌包装米飯や冷凍米飯の市場拡大が、拡大幅は縮小してきていたものの続いていた。平成28年には対前年比で前年並みとなったが、平成29年には再び上昇している。

図2-25 調理食品の生産指数の推移



加工米飯はかなりの程度上昇

加工米飯の生産量は37万3千トンで、生産指数は対前年比7.6%とかなりの程度上昇した。加工米飯のなかでは無菌包装米飯の生産量が増加しており、手軽に食べられる簡便化志向のニーズに適していることや備蓄用から日常食としての位置づけが定着したことが一因とみられる。

カレー及びその他の調理食品ともにわずかに上昇

調理缶・レトルトパウチの生産量は43万7千トンで、生産指数は対前年比2.6%とわずかに上昇した。内訳についてみると、カレーの生産量は16万1千トンで、生産指数は対前年比2.0%とわずかに上昇し、また、その他の調理食品の生産量は27万6千トンで、生産指数は対前年比2.9%とわずかに上昇した。

図2-26 調理食品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

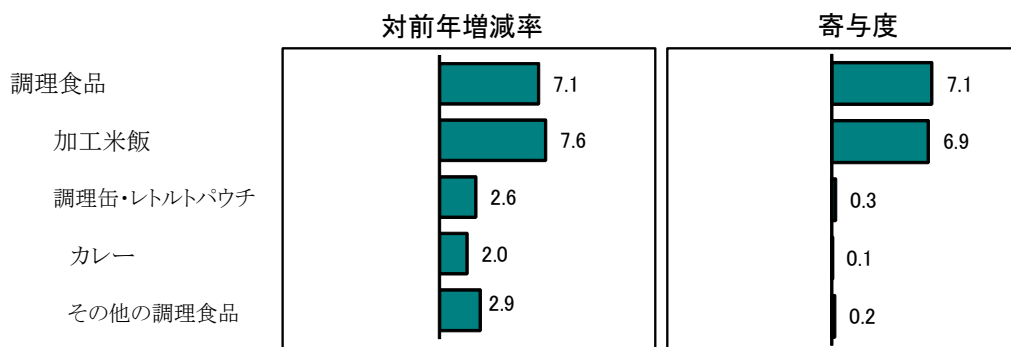


表 2-13 調理食品の品目別生産指数の推移

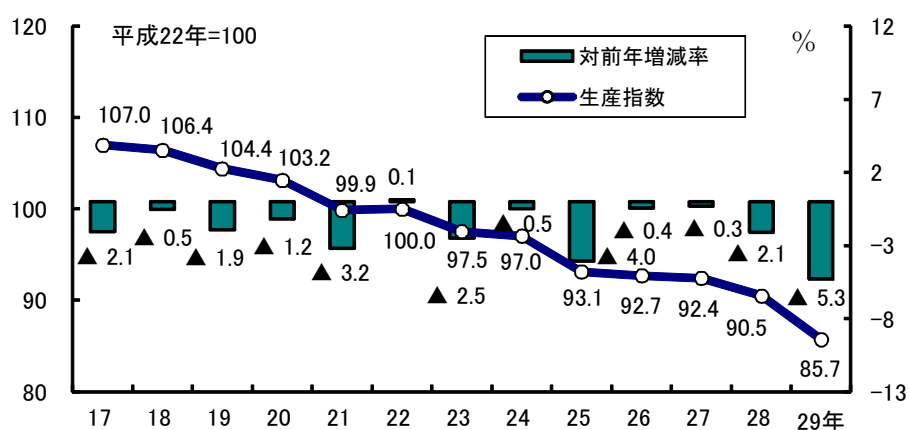
品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
		22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
調理食品	984.0	100.0	147.0	145.9	156.3	0.8	2.3	▲ 0.8	7.1	7.1
加工米飯	848.4	100.0	153.3	152.1	163.7	1.0	2.6	▲ 0.8	7.6	6.9
調理缶・レトルトパウチ	135.7	100.0	107.9	107.2	110.0	▲ 0.7	▲ 0.5	▲ 0.6	2.6	0.3
カレー	47.6	100.0	97.4	102.3	104.3	▲ 0.6	▲ 1.2	5.0	2.0	0.1
その他の調理食品	88.1	100.0	113.6	109.9	113.1	▲ 0.7	▲ 0.1	▲ 3.3	2.9	0.2

1.1 酒類

平成29年の酒類の生産指数（平成22年=100、一部推定を含む暫定値）は85.7で、対前年比▲5.3%とやや低下した。特に清酒、ビール、焼酎及び雑酒の低下が全体を押し下げている。

品目別にみると、ウイスキー及びスピリッツが対前年比でかなりの程度上昇し、リキュールがわずかに上昇した。一方、清酒、合成清酒、ビール、ブランデー及び雑酒はかなりの程度低下し、焼酎及びみりんはやや低下した。また、果実酒は前年並みとなった。

図2-27 酒類の生産指数の推移



ビール、雑酒はいずれもかなりの程度低下

ビールの生産量は230万8千klで、生産指数は対前年比▲6.3%とかなりの程度低下した。ウイスキーなど他のカテゴリーへの消費の移行や消費者の低価格志向から、ノンアルコールのビール風味商品など低価格商品に押され、平成29年は前年を下回った。

雑酒の生産量は104万5千klで、生産指数は対前年比▲6.8%とかなりの程度低下した。その要因として、特に若者の酒類離れが大きく響いているものとみられる。

焼酎はやや低下、ウイスキーはかなりの程度上昇

焼酎の生産量は71万8千klで、生産指数は対前年比▲4.6%とやや低下した。一方、ウイスキーの生産量は12万5千klで、生産指数は対前年比7.6%とかなりの程度上昇した。

スピリッツはかなりの程度上昇、リキュールはわずかに上昇

スピリッツの生産量は55万3千klで、生産指数は対前年比10.8%とかなりの程度上昇した。また、リキュールの生産量は182万5千klで、生産指数は対前年比1.3%とわずかに上昇した。

図2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

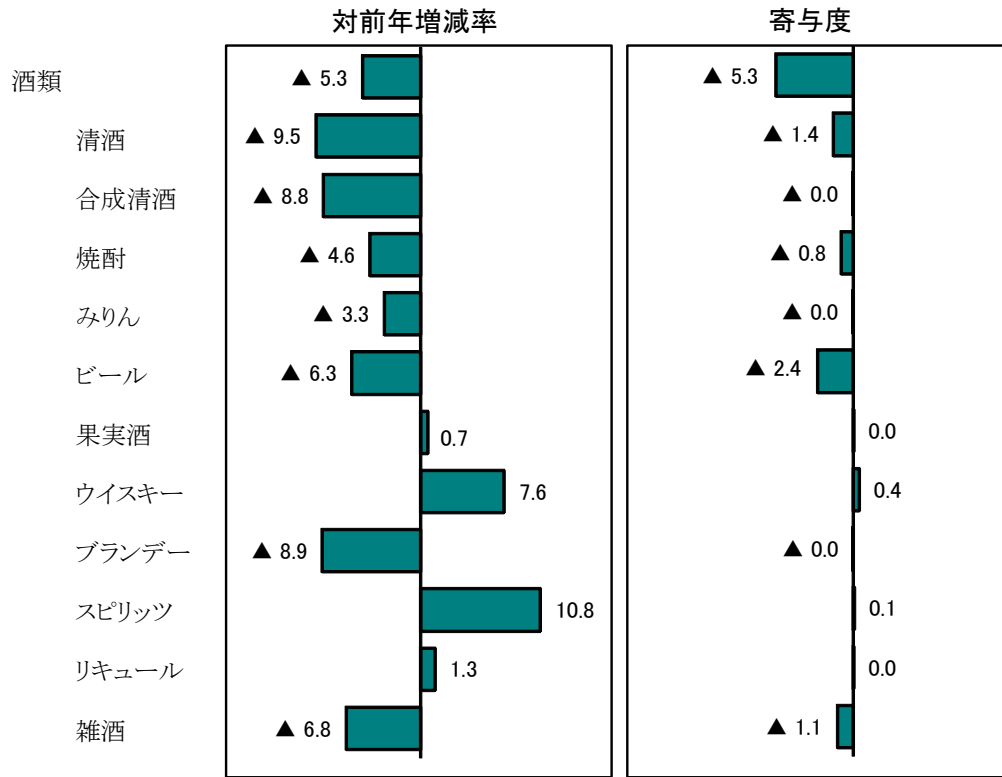


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (22年)	生産指数 (22年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 29/28年
		22年	27年	28年	29年	22年	27年	28年	29年	
酒類	2,029.9	100.0	92.4	90.5	85.7	0.1	▲ 0.3	▲ 2.1	▲ 5.3	▲ 5.3
清酒	290.7	100.0	93.6	91.0	82.4	▲ 1.7	▲ 2.0	▲ 2.8	▲ 9.5	▲ 1.4
合成清酒	6.0	100.0	76.5	70.8	64.5	2.4	▲ 4.7	▲ 7.5	▲ 8.8	▲ 0.0
焼酎	374.7	100.0	91.7	90.1	86.0	4.3	▲ 2.8	▲ 1.7	▲ 4.6	▲ 0.8
みりん	26.5	100.0	101.0	98.9	95.6	▲ 0.5	3.6	▲ 2.1	▲ 3.3	▲ 0.0
ビール	773.7	100.0	93.5	91.8	86.1	0.8	0.3	▲ 1.8	▲ 6.3	▲ 2.4
果実酒	35.9	100.0	132.7	130.3	131.2	1.4	1.2	▲ 1.8	0.7	0.0
ウイスキー	61.1	100.0	143.9	155.9	167.7	10.4	17.2	8.4	7.6	0.4
ブランデー	0.1	100.0	88.0	85.2	77.6	22.4	▲ 4.0	▲ 3.2	▲ 8.9	▲ 0.0
スピリッツ	6.4	100.0	164.4	189.9	210.4	8.5	12.1	15.5	10.8	0.1
リキュール	39.1	100.0	110.7	113.0	114.5	1.3	1.4	2.1	1.3	0.0
雑酒	415.6	100.0	76.0	71.1	66.2	▲ 25.1	▲ 2.5	▲ 6.5	▲ 6.8	▲ 1.1

